

特定非営利活動法人分析産業人ネット

# 第 19 期活動報告

令和 4 年度

2022.4～2023.3

## 令和4年度の活動概要

### 全体の状況

令和4年度（2022年度）もCovid-19 コロナ感染症の蔓延を防止するために前年度に引き続き行動制限が行われましたが、年後半になり諸外国で経済活動が再開されるとともに行動制限も緩和されました、しかし、2021年の2月に開始されたロシアのウクライナ侵攻に端をはった戦争が、石油価格の暴騰から、欧州でのエネルギー危機を招き、更にはサプライチェーンの中核である物流システムの混乱等が続き、これらの影響もあって食料品を始めとした物価の高騰が昂進しました、各国の中央銀行は1年間かけて政策金利を大幅に上げたために、我が国との金利差が増大し、円安が進行しました。これらの経済情勢は直ちに当法人の活動に著しい影響を与えたわけではありませんが、活動の推進にはマイナスに働きました。

### 事業活動の概要

人材育成事業は、対面で行う講習会の開催が今年度も出来ませんでした。通年で開催している通信講座も受講者が減少しました。毎年7月に全国一斉に行う検査分析士資格認定試験の受験者は昨年より増加したもののパンデミック前までの回復までは届きませんでした。一方で団体試験は昨年度に引き続き複数の団体から受験の依頼を受けました。検査分析士会の会員を対象とする研修会は10月に再開しました。振興普及事業は、マーケティング支援では日本で開催されたJASIS2022、CPHI12020、米国で開催されたPittcon2023でブース展示を実施し、今までの最高となる延べ9社の支援を行いました。通信販売事業はラボ用消耗品が安定した受注を得るとともに吸光光度計関連商品の売り上げが伸び、販売店経由の売り上げを含めて前年並みの売り上げを確保しました。

### 社会貢献活動の概要

機器分析に関するエッセイを公募するナーチャー賞エッセイコンテストは今年度も秋に開催し14名の中学生から後期高齢者までの全世代にわたる応募者がありました。海外支援はタイ国の泰日工業大学からの要望により、奨学金の提供と日本語スピーチコンテストの賞金提供、日本語教育を行う先生向けにタイで入手が困難な日本語教育に関する図書の寄贈をしました。また、マレーシア日本国際工科院の日本語スピーチコンテストへも賞金を提供をしました。

## 今期のトピックス

### 社会貢献事業の名称を「文化活動」に変更

もうすぐ定年か定年退職直後の企業OBを中心とした会員構成で発足した当法人の活動はもうすぐ20年となります。NPO法人の活動としてはまとまりが出てきており、これからも持続して活動をすることが社会的な責任です。しかし、いままで、積極的に会員を募集しなかったため、会員の高齢化が進んだ結果、活動をやめる会員も増え、設立時のような事業活動を遂行するためには新しい会員を募ることが必要になっています。当法人は基本的にボランティアによる活動で社会貢献を目指した活動をしています。この社会貢献活動には、活動の対価を求める事業活動と、対価を求めない活動があります。この対価を求めない活動の総称を今まで「社会貢献活動」と称していましたが、今後は「文化活動」と改めることにしました。

### 検査分析士特級資格試験の実施を開始

検査分析士資格制度には初級、上級、特級と3段階の資格がありそれぞれ資格認定を行っています。初級、上級については当初の企画に沿って受験者も増加しているのに対して、特級の受験者は皆無でした。そこで昨年度に特級資格要件を見直し、その結果に基づいて、特級資格認定試験の方法を変更し、試験を実施しました。試験は初級・上級の一斉試験を実施し上級合格者の発表後に受験者の募集を行いました。試験は受験者に問題を郵送して在宅で論述式の課題の答えを1週間で作成するという方法で実施しました。その結果、上級検査分析士2名が受験され、やっと特級検査分析士が誕生しました。

### アナログ吸光光度計を核とする光度計商品の開発

昨年度にアナログ吸光光度計の量産を当法人内で出来るようになり、在庫を持つことで、大手の通信販売が追及するような即納体制を可能としました。今年度はこれをベースとして、アナログ吸光光度計の組み立てキットと塩素濃度測定キットの製造の量産化に取り組みました。また、来年度以降、アナログ吸光光度計を使った濃度測定キットや簡易検査キット等の開発について、多くの方に協力をしていただける体制を確立するために、生産管理体制を整備し、利用者向けのドキュメント等の整備を始めました。

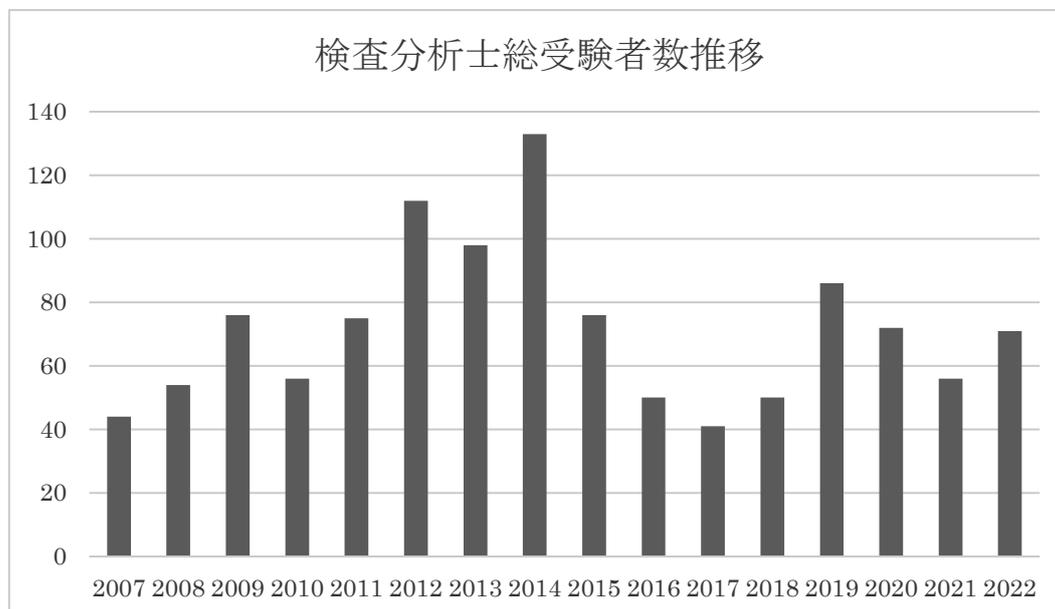
## 事業報告

### I. 人材育成事業

当法人のビジョン「分析技術を担う、世界に通用する人材の育成」を目指して活動しています。

#### 1. 資格認定事業

検査分析士と検査分析士マーケティングエキスパートの初級と上級の一斉試験を2022年7月23日の午後、昨年と同じ東京、名古屋、大阪、仙台、福岡の5都市で行いました。今年度も昨年と同様に感染症のために自粛された場合も多かったとみられ受験者は初級21名、上級2名に留まりました。昨年、試験方法を変えた特級試験を試験の後に実施し、2名の特級検査分析士が誕生しました。検査分析マーケティングエキスパートの受験者は皆無でした。一方、検査分析士初級団体試験の受験者は合計26名、また大学課程履修での合格者は7名でした。検査分析士資格試験の合格者が入会できる検査分析士会の研修会を3年ぶりに再開しました。また、検査分析士会の会員に対する休会制度を設けました。これは初級資格の合格者が上級資格を受験するまでの期間が人により長期間となる場合があるためです。



#### 2. トリニティースクール事業（講習会・通信教育事業）

講習会は今年度も開催を取りやめました。通年で実施している通信講座の受講者は昨年より大幅に減少しました。

## II. 振興普及事業

当法人のビジョン「社会基盤となる分析技術に関する技術の普及」を目指して活動しています。

### 1. ビジネス支援事業

今年度は4月に開催されたCPHI展（国際開発医薬品展）と9月のJASIS展（最先端科学・分析システム&ソリューション展）に出展し、延べ5社のマーケティング支援の展示代行を行いました。代行依頼が多かったのはCovid-19感染症の行動制限等で参加を躊躇する企業等が多かったためと思われます。また、3月に3年ぶりに米国のフィラデルフィアにおいて対面式で開催されたPittcon2023カンファレンスにブース出展しセミナーを開催しました。この展示会も以前のような大規模にはなりませんでした。これは出展を控えて様子見の企業が多かったためと思えますが、マーケティング支援の依頼は今までで一番多い4社となりました。一方、企業内研修を支援する講習会等の開催はありませんでした。

### 2. ネットバザール事業（通信販売事業）

今年度も蛍光X線分析で使用するプラスチックフィルムの受注が即日出荷体制を確立したこともあり年間を通じて好調でした。アナログ吸光光度計も即日出荷体制が整備されたネットバザールでの受注とケニス社からの受注で台数を伸ばしました。また、アナログ吸光光度計の組み立てキットと塩素濃度測定キットの受注もありました。書籍・冊子の受注件数は昨年よりも増加し、件数はすくないもののコンスタントに受注がありました。8月にベトナムとタイの民芸品のバッグを中心にしたサマーセールを初めて行いました。

### 3. コンテンツ制作事業(出版及び動画制作)

英文のMakers of Modernity in Japan 2nd editionは、今年新たに日本人の創業者を1名の原稿ができ、第1版の創業者10名から20名として来年度発行します。尚、この第2版の日本語原稿は令和6年度に発行予定の機器分析の創業者たち第2版の日本人編の原稿となります。

### 4. 簡易機器事業

昨年度に確立したアナログ吸光光度計は確立した量産体制のもと計画的な製造により原価が低減し、また在庫を持つことで通信販売の特徴である、受注後即出荷の体制を整えることが出来ました。また今年度は光度計組み立てキットの量産化も行いました。

### Ⅲ. 文化活動（旧社会貢献活動）

日本では「社会基盤となる分析技術に関する技術の普及」のビジョンにそって、タイ国では「分析産業人ネットの慈善活動」で掲げたビジョンに基づいて活動を展開しています。

#### 1. ナーチャー賞エッセイコンテストの開催

今年で13回目となる機器分析に関するエッセイを対象とするナーチャー賞エッセイコンテストは募集を9月に開始し、告知は複数の募集サイトに掲載して行いました。11月26日に応募を締め切り、14人の方から応募がありました。初めての応募者は7名でしたが、幅広い年齢層から応募があり、初めて中学生2名からの応募があり、出来栄も遜色のないものでした。受賞者は大賞1名、優秀賞3名（内中学生2名）、スティディオス賞、ノヴィ・ホミネス賞各2名、検査分析士会奨励賞各1名と新たに設けたカルチュラアナリティカ賞2名で受賞者は計11名となりました。3年ぶりに授賞式を1月22日に東京都千代田区のホテルマイステイズお茶の水で行いました。

#### 2. タイの泰日工業大学（TNI）の日本語スピーチコンテストの支援

コンテストは今年も全学生が受講する日本語講座が終了する3年前期の終了時に全学の学生を対象の9月に行うプレゼンコンテストと日本語ビジネスコースの学生を対象として2月に行われるスピーチコンテストがあります。今年9月のプレゼンコンテストは日本からのWEB参加となりましたが、2月のスピーチコンテストは現地を訪問して大会に参加しました。

#### 3. マレーシア日本国際工科院（MJIIIT）の日本語スピーチコンテストの支援

マレーシア日本国際工科院はマレーシアと日本の政府により日本のモノづくり技術を学ぶために設立されました。毎年11月にJapan dayという催事を行い、日本の伝統芸能や折り紙、川柳コンテストと共に日本語スピーチコンテストが行われ、既に今年度で5回目となります。現地には行けませんでした。スピーチコンテストの支援を行いました。

#### 4. タイの泰日工業大学学生への奨学金提供と日本語科への図書への寄贈

生活支援を目的とする奨学金を今年度は、泰日工業大学の2年から4年の学生各2名の計6名の学生に1人3万バーツを支給しました。泰日工業大学の日本語教室の先生は学生が履修する教材を独自に作成でしています。これらの教材作成の参考にする資料はほとんどが日本で出版されており、タイで入手することが困難です。日本語教室の先生方が希望すると図書を毎年、日本で調達し寄贈しています。

## IV. 法人の運営状況

運営に関する業務は、東京都千代田区の事務所で行いました。

### 1. 組織

当法人の運営は理事会で経営方針、経営計画等を審議し、各事業の具体的な活動方針は理事と正会員、及び外部の委員も加えた人材育成委員会、資格推進委員会等の委員会で審議を行い方針が決定されます。また当法人の具体的な実務は、理事会等で決められた方針、計画に基づいて事務局で行います。正会員だけでは対応できない検査分析士資格認定試験の問題作成等については必要に応じて外部に委託または会員以外のボランティアにより実施しています。ナーチャー賞エッセイコンテストの受賞者は、審査委員による点数による評価にもとづきエッセイコンテスト選考委員会で選考を行います。

### 2. 財務

当法人は外部資金に依存せずに会員からの会費収入と、当法人が行う事業収入により活動をおこなうことを目標にしています。しかし、会費収入と事業活動による収入に対して現在、展開している活動にかかる費用をすべて賄うことは今年度も出来ませんでした。活動を持続するために不足する資金は理事を含めた会員の寄付により補充をしています。

### 3. 投資

今年度は昨年に引き続き、簡易機器事業において、アナログ吸光光度計の即日出荷を可能にするために在庫を積み増し、同様に即日出荷が確実に出来るように蛍光 X 線の消耗品についても在庫の積み増しをしました。英文ホームページの全面的な更新を進め、検査分析士資格認定制度と検査分析士会の会員制度の変更のため、検査分析士会のホームページの一部の更新を行いました。

### 4. 広報

当法人の広報は正会員・賛助会員と検査分析士会会員向けの季刊の会報誌の発行、一般向けに 3 つのドメインによりホームページで情報を発信しています。分析産業人ネットのホームページは、スクール事業の聴講の申込、検査分析士資格試験の申し込みの案内、ネットバザールでの消耗品等の販売、エッセイコンテストの募集等の機能を備えています。検査分析士ホームページでは機器分析に関する情報を中心にして情報を発信しています。その他、E-mail NEWS や Youtube、Facebook 等による発信を行っています。

特定非営利活動法人分析産業人ネット

英文名 Professionals' Net Work in Advanced Instrumentation Society

設立 2004年11月24日

事務所所在地 〒101-0063

東京都千代田区神田淡路町2-6 淡路ビル4F

電話 03-5294-3115 FAX 03-5294-3344 E-mail [info@pai-net.or.jp](mailto:info@pai-net.or.jp)